

三とせの青春



ようこそ！松江南高校へ！

普通科第57回・理数科第49回 入学式



入学式場全体



新入生代表宣誓 26R 狩谷圭一さん



新入生入場



校長式辞

1学年 担任紹介

21R

嘉藤 聖子

英語



23R

油布 光将

数学



25R

布野 泰彦

数学



27R

高田 美穂

美術



学年主任

登城 智宏

地歴公民



22R

和田 耕一郎

英語



24R

田中 祥平

理科



26R

佐々木 玲子

国語



校訓

質実剛健

創造進取

和敬共栄

校長式辞

春爛漫です。南高に向かう坂の桜も、まさに桜坂、今日の入学式を待ち構えていたかのように満開となりました。

この輝くような春の日に、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに松江南高校・普通科第57回・理数科第49回入学式を挙行できますことは、新入生はもちろん、私たち教職員、在校生にとりまして大きな喜びでございます。ご臨席賜りましたご来賓の皆様には、高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

新入生の皆さん、保護者の皆様、ご入学おめでとうでございます。この南高に将来を託してくれた皆さんを心から歓迎いたします。

新入生の皆さんは、これまで家庭において、あるいは学校においてそれぞれの日常を送ってきました。一見当たり前のように思えるその日常の中で、実は皆さんは自分自身を高める小さな戦いを繰り返して、今日まで生きてきています。

それは、例えば毎朝自分の力で起きて、向かい風の中自転車をこいで学校へ行くことであったり、部活動での厳しい練習に耐えることであったり、高校入試の合格を目指して苦手な数学の問題を何度も解いたりする。それらはすべて、自分を高めるための小さな戦いであったはずです。

そんな新入生の皆さんに、今日は「米長邦雄」という人物のエピソードを紹介します。かつて将棋の四冠王、世界最強のプロ棋士と言われた人物です。彼は40年間のプロ生活で史上四人目の通算1,100勝を達成しました。ところが彼は、一方で800回負けているのです。その米長さんの言葉です。

「将棋は、その時その時に一番良い指し方をすれば、必ず勝ちます。しかし、百点満点の方法がいつも出せるか、出し続けられるか。それができるのは神様だけです。人間は違います。必ずどこかで間違えます。頭を絞りつくして一つの正しい方法を発見していくには、日々どのように成長していくかが大切なのです。」

米長さんはプロとして確固たる地位を築き、後輩の挑戦を受ける立場になります。ところがその後、大事な一戦で勝てない、負け続けてしまう時期がありました。そのとき彼は、自分より27歳も若い棋士に「どうして僕は勝てないのでしょうか。先生、僕に稽古をつけてください。」と頼み込み、実際そうして練習を重ねたそうです。アドバイスの一つ一つに耳を傾け、その一つ一つを実践したそうです。

プライドよりも自分の成長を優先する姿勢。素直に教えを乞う気持ちと行動力。そうして挑み続けた小さな戦いの繰り返しですが、彼を強くし、彼の将棋を神業（かみわざ）と呼ばれる域にまで高めることになったのです。

皆さんもこれまで、さまざまな場面で自分を高める積み重ねをしてきました。その一つの結果が今日の入学式ですし、それについてはぜひ誇りを持ってください。

ただ、これまでの積み重ねが、必ずしも自分の意志によるものでなかったり、中途半端なもので終わっていたとしたら、今日から少し自分の姿勢を変えてみましょう。まずは、秘かな野心を持ちましょう。たとえば、憧れの〇〇大学に進学して将来の夢をかなえたいとか。たとえば、部活で今度こそ全国の舞台に立つんだ！とか。

そして、ここからが肝心です。米長邦雄のように「ここが分からないのです。これができないのです。教えてください。」と自ら進んで求め、実践する人になってほしい。目標に向かって小さな戦いの場面を自ら創り出し、時に勝ち、時に負けながら、自分を高める人になってほしいと思うのです。

わが南高の校訓。その二つめに掲げる「創造進取」とは、まさにそういう姿勢を言います。どうか新入生の皆さん。皆さんのすべてが、「自ら進んで取りに行く」3年間を過ごしてください。

終わりにになりましたが、保護者の皆様、お子様のご入学を心よりお祝い申し上げます。そして、最初のお願いを申し上げます。今日から私たち教職員は、皆様とともに「この子を導き、支え、よりよく育てていく」という、同じ仕事に取り組むことになりました。

私たちは、力を尽くしてお子様をサポートします。そして、ご家庭における教育の理解に努めてまいります。保護者の皆様におかれましても、どうか本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私たちと皆様とは、ともに生徒の夢を語り合う関係でありたいと思っています。

新入生の皆さんへ、最後にもう一度。

皆さんが小さな挑戦を重ね、勝ったり負けたりしながら強く大きくなっていく。そんな姿を心から期待して、式辞といたします。

平成29年4月11日

島根県立松江南高等学校長 高橋泰幸